探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：神石高原町立三和中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
神石高原町立三和中学校	5	78
神石高原町立来見小学校	8	66
神石高原町立三和小学校	8	119

（R4.11.1現在で記入）

1　研究の概要

（1）　研究テーマ及び研究のねらい

＜研究テーマ＞

主体性を発揮する児童生徒の育成

―「地域」を教材とした探究的な活動を通して―

（2）　資質・能力の設定について

決定の際には，三和中学校と連携型中高一貫校である広島県立油木高等学校とのつながりも意識した。

○課題発見力

（『思考・判断・表現①』「課題の設定」）

○課題解決力

（『思考・判断・表現④』「まとめ・表現」）

○振り返り力

（『主体的に学習に取り組む態度③』「将来展望・社会参画」）

（3）取組について

○小中連携

・月１回の研究担当者会・町内共通サーバーで共有・授業交流

○導入の工夫

○「立ち止まりポイント」の位置付け

○指導者のファシリテート

○児童生徒の姿で語ることができる教師集団

2　実践事例

【導入の工夫】

児童生徒が自ら課題を発見し，探究的な学習を進めていけるような導入を工夫した。児童生徒の思いや願いから単元をスタートさせることで，教師が作成した単元計画からズレが生じることも考えられるが，児童生徒が主体的に取り組むことに重点を置いた。

・異学年交流で自分事に

・実際の社会にある課題を自分事に

等，児童生徒の「なんでだろう」「やってみたい」という思いや願いを大切にした。

また，地域の困り事から「自分たちにできることは何だろう。」という課題設定につなげていった。

【「立ち止まりポイント」の位置付け】

児童生徒の学びを深めるために，「壁」や「ショック」等の「立ち止まりポイント」を効果的に位置付け，児童生徒が「これで本当によいのだろうか？」「この方法ではできないから，別の方法を考えよう」等，自分の探究的な学びを改めて振り返り，深められるような場面を意識して設定した。

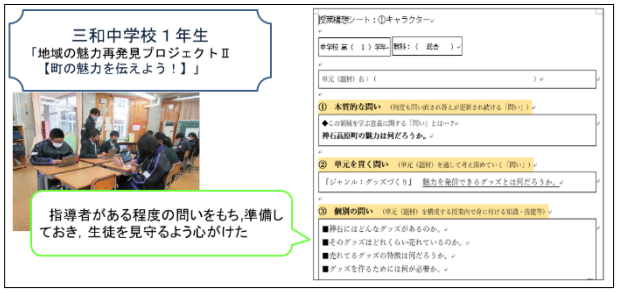
○来見小学校４年生における２回目の出張販売での立ち止まりポイントは，「１回目より販売時間が長い」ということである。児童は，１回目の販売の際に行った歌と踊りだけで２時間もお客さんを呼び込むのは難しいため，歌と踊りに加えて，リコーダー演奏をしようと考えた。「リコーダーだったら，毎朝練習しているからすぐ吹くことができるし音もよく響いて遠くの人にも聞こえて，買いにきてくれるのではないか。」と考えていた。

＜１回目の販売＞　　＜２回目の販売＞

○三和小学校５年生における立ち止まりポイントは，講師の話である。児童版スーパーシティ構想を作ろうと，バイオマス発電のことを調べた児童は，「木をたくさん植え続けるとよい。」と考えていたが，講師の話を聞くことで，木を切り出すことの大変さに気付き，自分たちの提案の実現性，有効性について，考えるきっかけとなった。

【指導者のファシリテート】

教師は，計画通りに学習を進めるのではなく，児童生徒の学習をファシリテートしていくよう心がけた。また，児童生徒がわくわくして探究することができるよう，本物に触れたり体験したりする場も多く設定するようにした。



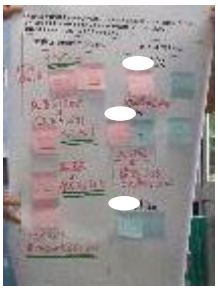
三和中学校１年生では，地域の魅力をジャンルごとに伝え広める活動を行った。特産物，歴史，職業、PR等，どのジャンルにおいても，指導者が「問い」をもち，それらを指導者どうしで共有し，生徒の学びを見守るように心がけた。時には，「それって予算どうするの？」「時間的に無理なのでは？」等指導者が壁となり，主体的な学びを促すためのファシリテートを行った。その結果，生徒たちは，次第に指導者に頼ることなく，自分たちでアポイントメントを取ったり，校長先生との交渉に臨んだりする等，自分事として取り組む姿が見られた。

【児童生徒の姿で語ることができる教師集団】

授業後の研修方法を児童生徒の個々の姿を中心に語り合う協議に変えていった。

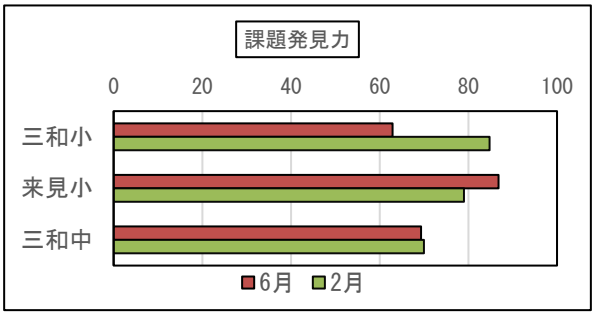
教師一人一人が見取る対象児童生徒を予め決めておき，その児童生徒の姿の変容から，どんな手立てが効果的であったかに着目して授業を振り返った。発言力のある児童生徒だけでなく，発言が少ない児童生徒の実態も見取るようにした。この取組が個別

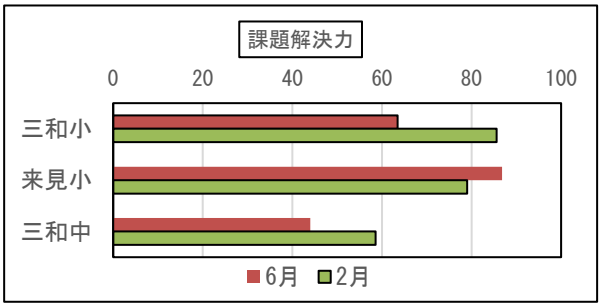
最適な学びにつながると考えて取り組んだ。

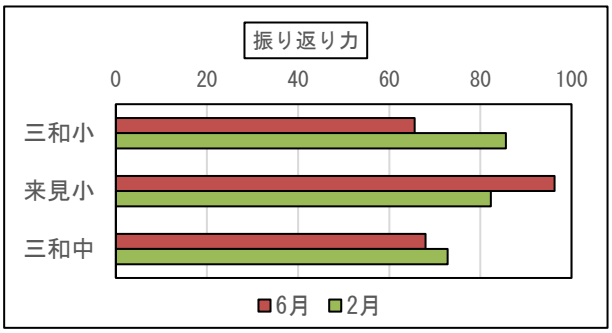


３　研究の成果と課題等

＜児童アンケートより＞







＜教職員アンケートより＞　　○成果　●課題

○探究を意識して授業を進めることができるようになってきた。

○児童生徒の思いを聞くことを中心に据えることにより，児童生徒自身が自分たちで課題解決できるように学びをコーディネートできるようになってきた。

○児童生徒の願いに沿って単元計画を立てることができるようになり，そのことを通して，教師自身の柔軟性が高まり，児童生徒理解につながった。

○問題解決に向けて「立ち止まりポイント」でしっかりと考えさせることができた。

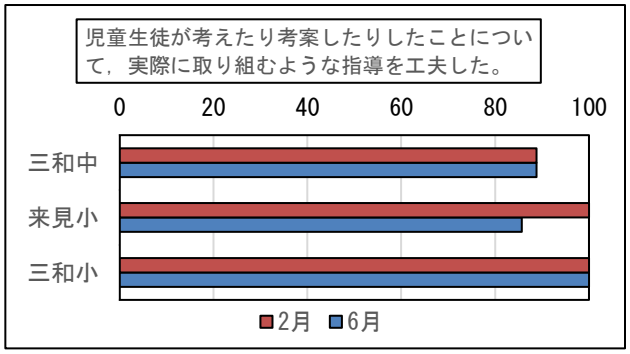
○自分の言葉で自分の思いが伝えられる児童生徒が増えてきた。

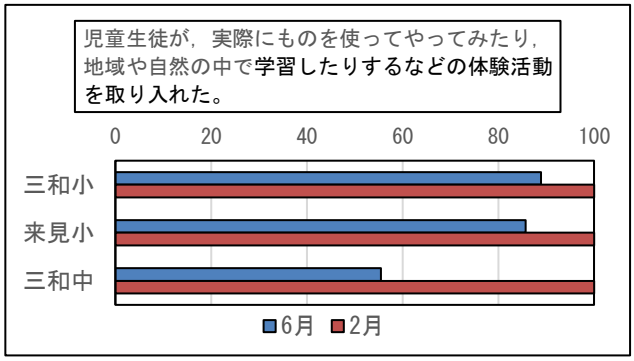
○探究で学んだことが，児童会・生徒会活動等につながってきた。

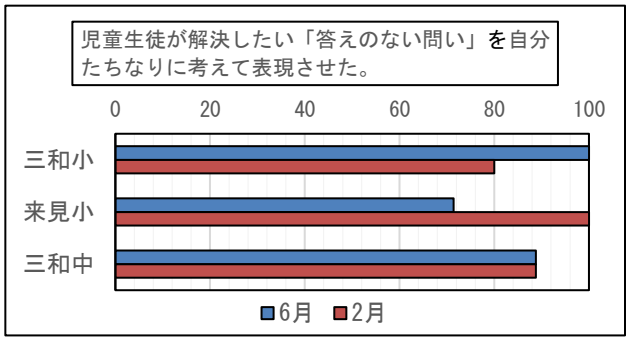
○生活・総合で学習したことを児童生徒自身が次の生活・総合の学習に生かすようになってきた。

●児童生徒の思考の流れに沿って，活動する時間を確保することが難しかった。

●さらに，「探究」が深まる単元構成やファシリテートをしていく必要がある。







（１）成果

＜児童生徒＞

・三つの資質・能力が身に付きつつある。

・探究で得た力を，他教科他領域に生かす場面が見られるようになってきた。

＜指導者＞

・児童生徒の思いや願いを中心とした単元を組み立てた。

・児童生徒の学習をファシリテートできつつある。

・「導入の工夫」や「立ち止まりポイント」で本物の探究に近付いてきた。

（２）課題

・課題解決力の向上

・児童生徒一人一人が自分事として探究すること

・付けたい力・なりたい姿の系統表に沿った見取り

・３校のさらなる組織的な連携・職員共有

（３）今後の改善方策等

・立ち止まりポイントの効果的な位置付け

・児童生徒が学びやすい環境づくり

（自己決定の場づくり・しかけ・学習の足跡掲示）

・付けたい力・なりたい姿の系統表に沿った見取り